



高齢者医薬品適正使用推進事業 中間報告



一般社団法人

宝塚市薬剤師会

令和4年11月30日

1.宝塚市薬剤師会の概要

薬剤師会概要	
名称	一般社団法人 宝塚市薬剤師会
代表者	会長 村上 史恵
住所	兵庫県宝塚市伊子志3-8-20 馬殿第一ビル201
設立	昭和29年（1954年）設立
会員数	会員数176名 薬局99店 （令和4年（2022年）9月現在）



1.宝塚市薬剤師会の取り組み

地域連携研究会	宝塚市地域包括ケアシステム研究会 (3つの若葉を育てる会：市内医療従事者団体共催) 宝塚市薬剤師地域連携研究会 (宝つーかーの会：薬剤師会・医師会共催)
薬剤情報の共有	診療情報提供書・トレーシングレポート 退院時薬剤情報提供書・入院時薬剤情報提供書 吸入指導報告書
行政事業との連携	(県)服薬情報通知事業：広域連合-医師会-薬剤師会 (市域) 通知事業実態調査 ：市立病院中心に医師会-薬剤師会と 協働で現場の取り組み内容を評価 ⇒薬剤調整方法について複数回の研修会実施
市民・多職種への 啓発活動	いきいき百歳体操講演会（市役所高齢福祉課） 地域包括・デイサービス等への出張講演 薬と健康の週間講演会

通知事業 (国保保健事業 服薬適正化勧奨事業)

サンプル 太郎

お薬情報の「お知らせ」

番号 9999-9999

No	医療機関名	★: かかりつけ薬剤師	薬局名	薬剤種類
1	AAクリニック		C薬局	11
2	Aクリニック		D薬局	7
3	BB病院		<院内処方>	1
4	BB病院		<院内投与>	7
合計				26

医療機関や薬局にかかるとき、 この「お知らせ」を持っていきましょう。

この「お知らせ」は、あなたが服用(使用)されていた薬の情報を記載しています。複数の医療機関を受診されている場合、一つの医療機関では、他の医療機関からどのような薬があなたに処方されているのかわかりにくく、正確に把握できません。このため、それぞれの医療機関から同じ成分の薬が重複して処方されてしまうことがあるかもしれません。医師や薬剤師にあなたが服用(使用)している薬剤全てを知ってもらうため、医療機関や薬局にかかるときに、この「お知らせ」とお薬手帳を持っていきましょう。

なお、治療の必要性から医学的な判断により、同じ成分の薬などが処方されている場合がありますので、ご自身の判断で服用を中断せず、医師や薬剤師に相談してください。

STEP 1

この「お知らせ」を
医療機関や薬局に
行くときに持って
いきましょう。



STEP 2

医師や薬剤師に
お薬の確認をして
もらいましょう。



お薬手帳も忘れずに!

医療機関や薬局を受診する際には、お薬手帳をその都度提出しましょう。その際、お薬手帳を医療機関ごとに使い分けたりせず、1冊にまとめたほうが診察する医療機関も過去に処方された薬や服用歴を確認できるので安心です。



この明細について/使い方

2022年4月時点で処方された情報で通知書を作成しております。

この明細は、宝塚市が把握している2022年4月時点で、あなたに処方された医薬品について掲載しています。(現在、服用している薬剤と異なっている場合があります)。医療機関や薬局へ持って行き、お薬の重複や飲み合わせなど確認してもらいましょう。「NO」欄の番号は、上部記載の受診した医療機関の「NO」欄の番号です。

No	薬剤名	数量	日数	調剤日	剤型
1	サインバルタカプセル20mg	2 カプセル	18	4/21	内服
	スピロラクトン錠25mg「トーフ」	2 錠	18	4/21	内服
	フロセミド錠20mg「NP」	2 錠	18	4/21	内服
	アゾセミド錠60mg「JG」	1 錠	9	4/21	内服
	ミヤBM錠	3 錠	18	4/21	内服
	ネキシウムカプセル20mg	1 カプセル	18	4/21	内服
	プリンペラン注射液10mg 0.5%2mL	10 管	1	4/21	注射
	リノロサル注射液4mg(0.4%)	10 管	1	4/21	注射
	ソルデム3A輸液 500mL	6 袋	1	4/21	注射
	ヘパリンNaロック10U/mLシリンジオートツカ10mL 100U	10 筒	1	4/21	注射
ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「ニットー」	50 g	1	4/21	外用	
2	サインバルタカプセル20mg	2 カプセル	14	4/7	内服
	スピロラクトン錠25mg「トーフ」	2 錠	14	4/7	内服
	フロセミド錠20mg「武田テバ」	2 錠	14	4/7	内服
	アゾセミド錠60mg「JG」	1 錠	6	4/7	内服
	ミヤBM錠	3 錠	14	4/7	内服
	ネキシウムカプセル20mg	1 カプセル	14	4/7	内服
ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「ニットー」	50 g	1	4/7	外用	
3	エスワンタイホウ配合OD錠T25 25mg(テガフル相当量)	4 錠	28	4/18	内服
4	アロキシ静注0.75mg 5mL	1 瓶	1	4/18	注射
	ソル・メドロール静注用500mg(溶解液付)	1 瓶	1	4/18	注射
	大塚生食注 50mL	2 瓶	1	4/18	注射
	生食注シリンジ「NP」 10mL	1 筒	1	4/18	注射
	ソルアセフ輸液 500mL	2 袋	1	4/18	注射
	ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「ヤクルト」	3 瓶	1	4/18	注射
	シスプラチン点滴静注10mg「マルコ」 20mL	4 瓶	1	4/18	注射

多剤服用対象高齢者 通知事業実態調査

- 県後期高齢者医療広域連合より『服薬情報通知書作成等業務』として、市内在住の75歳以上で多剤服用患者あるいは重複投与患者の個人宛に、「お薬情報の『お知らせ』」という通知書が発送
 (2019.8、2020.2、9、2022.9)
- 通知書を受け取った医療機関が実際どのように対応したか医師会・薬剤師会・病院で検討
- 患者が通知書を薬局に持参された際、どう対応されたかを本調査表に記載し、市立病院薬剤部へ報告・薬剤部が集計

通知事業実態調査表						別紙3 <small>(2019.9FHD)</small>	
施設名			記入者			<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 薬剤師	
患者年齢	歳	身長/体重	cm / kg	イニシャル	性別	M・F	
				<input type="checkbox"/> 不明の場合はチェック			
記入日			年 月 日			介入について	
患者情報	患者様の現在受診している医療機関は何件？			通知書により別医療機関も含め、服用薬の全体像が確認できたと思いますが、問題となる処方内容はありませんか <input type="checkbox"/> 重複(同成分薬) <input type="checkbox"/> 重複(同効薬) <input type="checkbox"/> 処方意図不明 <input type="checkbox"/> 服薬状況不良 <input type="checkbox"/> 残薬 <input type="checkbox"/> 用法・用量 <input type="checkbox"/> 相互作用 <input type="checkbox"/> 薬理作用的問題 <input type="checkbox"/> 患者希望(渡診後等) <input type="checkbox"/> 副作用 <input type="checkbox"/> その他()			
	利用している保険薬局数は何件？						
	通知書持参時の服薬状況は良好ですか 1-良好 2-不良 3-不明						
	服薬管理者は？ 1-本人 2-家族 3-不明						
	ここ2~3か月での体重の減少は？ 1-あり 2-なし 3-不明						
	血液検査の確認はしましたか？ 1-確認済み 2-未確認						
介入結果	通知書に記載されている薬剤数			2 通知書に対して何らかの介入を行いましたか <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ			
	(内服)			↓ ↓ どのような介入ですか それはなぜですか <input type="checkbox"/> 重複(同成分薬) <input type="checkbox"/> 介入不要と判断したため <input type="checkbox"/> 重複(同効薬) <input type="checkbox"/> 他医療機関の処方のため <input type="checkbox"/> 処方意図不明 <input type="checkbox"/> 減薬の方法が分からないため <input type="checkbox"/> 服薬状況不良 <input type="checkbox"/> 時間の余裕がないため <input type="checkbox"/> 残薬 <input type="checkbox"/> マンパワー不足のため <input type="checkbox"/> 用法・用量 <input type="checkbox"/> 処方介入に必要な検査値等がないため <input type="checkbox"/> 相互作用 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 薬理作用的問題 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 患者希望(渡診後等) <input type="checkbox"/> 副作用 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()			
	(内服以外)						
処方意図が不明な薬剤は何種類ありますか			3 通知事業に対する御意見 <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> お薬手帳で十分				
対応後の薬剤数							
(内服)							
(内服以外)							
介入にあたり他の医療機関と連携をしましたか(複数回答可:1,2) 1-はい(医院/病院) 2-はい(保険薬局) 3-いいえ							
当患者の処りに費やした時間は？ <small>(※服薬説明等を含む対応、問合等に要した時間がまたがる場合は各日に費やした時間の合計)</small>			分				
お手数をおかけしますが、記入が終わり次第、患者様が持参された「お薬情報の『お知らせ』」のコピーを添付のうえ、宝塚市立病院薬剤部までFAX下さい (FAX: 0797-87-1474)							

通知事業後（2019年） 多剤処方が改善された該当数及び割合

6種類以上の内服薬が処方されていたものについて、2種類以上減少
さらに調剤についてはその状態が4週間継続した場合に算定



2.業務実施方針

ポリファーマシー対策活動の現状(事業前)

- 通知事業の実施
- 薬局アンケートの実施（令和4年6月）
対象：市内処方せん応需保険薬局（会員薬局）
対象データ：昨年度について（令和3年4月～令和4年3月）

薬局アンケート

令和4年6月実施

対象：市内処方せん応需保険薬局
(会員薬局)

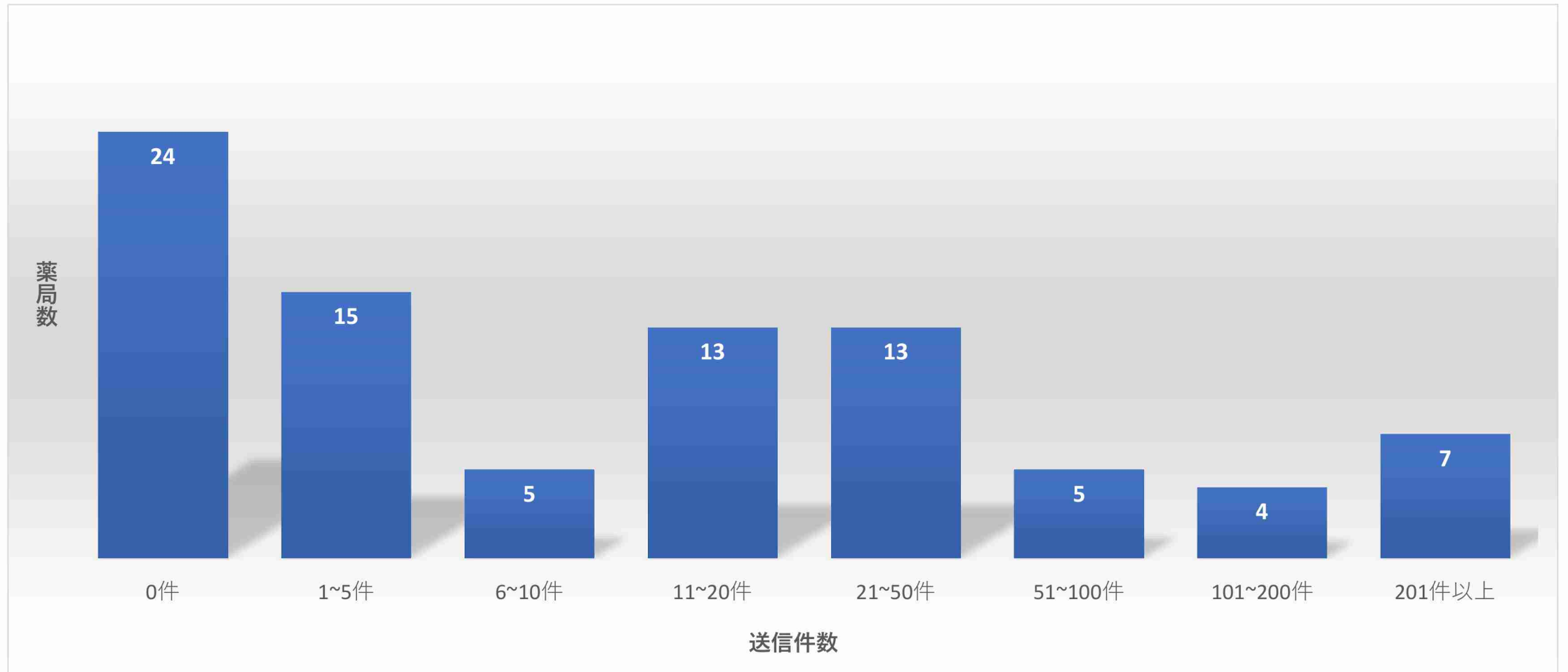
対象データ：昨年度について
(令和3年4月～令和4年3月)

回答数：86軒

トレーシングレポートの送信件数（医療機関への情報提供）	件
服薬情報等提供料1（30点）の算定件数	件
かかりつけ薬剤師の条件を満たしている薬剤師数	人
かかりつけ薬剤師指導料を算定している患者数（実人数）	人
処方提案を行った件数	件
処方提案を行った件数のうち処方変更となった件数	件
重複投薬・相互作用防止加算の算定を行った件数	件
外来服薬支援料の算定を行った件数	件
服用薬剤調整支援料1（125点）の算定件数	件
服用薬剤調整支援料2（100点）の算定件数	件

トレーシングレポート送信件数

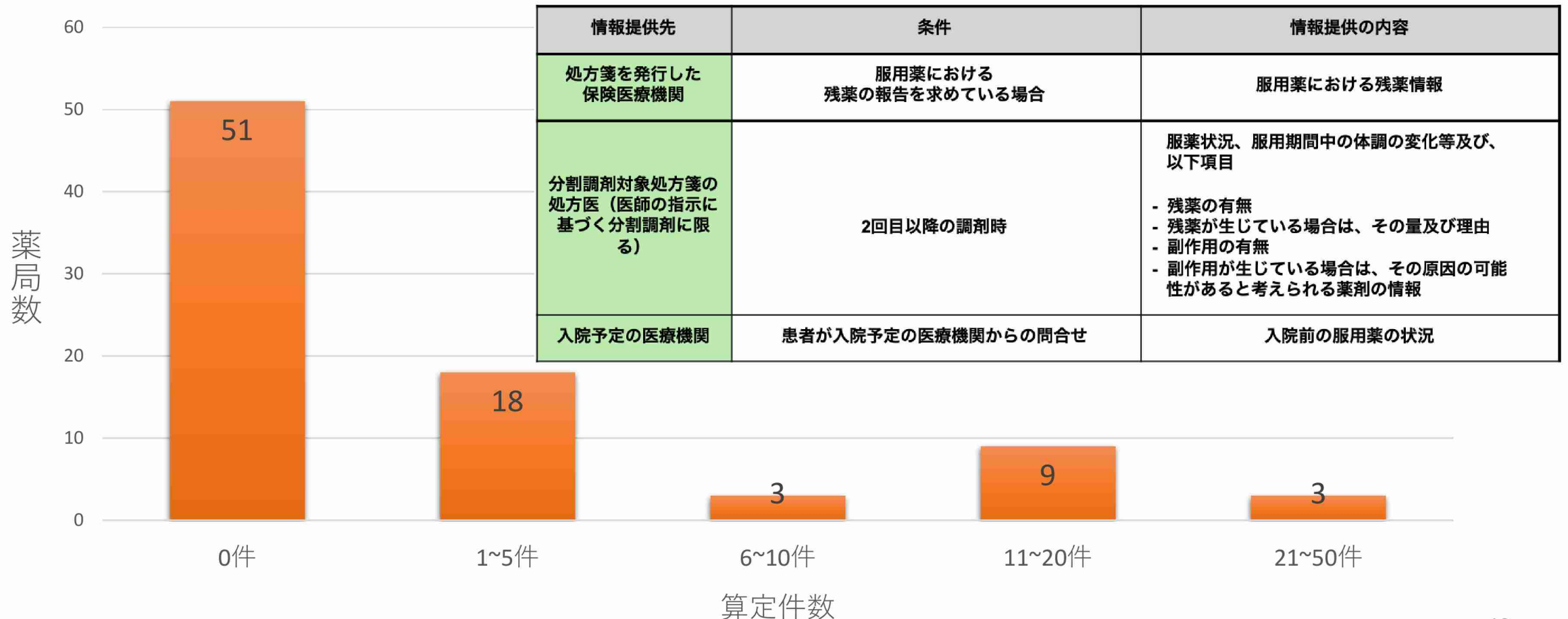
昨年度（令和3年4月～令和4年3月）について 回答数：86軒



服薬情報等提供料1の算定件数

昨年度（令和3年4月～令和4年3月）について 回答数：84軒

・服薬情報等提供料1 30点（保険医療機関から情報提供の求めがあった場合に算定・月1回）



宝塚市薬剤師会の現状（事業前）

- 通知事業が実施されたが、対象の薬局が少なかった
（2019年2～12月報告軒数 クリニック5軒、薬局18軒）
- トレーシングレポート送信件数0の薬局が2割強（24軒）

→病院と薬局の連携しやすい環境を作り、
市域全体で患者（特に高齢患者）を支える仕組みを
医療機関全体として作る術を皆で考え実行していく

2.業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項

業務手順書における課題	実施事項
1.人員不足で、対象患者の抽出や、検討する時間を作れない	・入院時情報提供書による情報共有 ・トレーシングレポートを送信しやすい環境
2.多職種連携が十分でない	・入院時情報提供書による情報共有 ・お薬手帳カバーの活用 (かかりつけ医・担当ケアマネがわかる)
3.お薬手帳がうまく活用されていない	・お薬手帳カバーの活用
4.ポリファーマシーであるかを判断することが難しい	・トレーシングレポートを送信しやすい環境
5.医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい	・入院時情報提供書による情報共有
6.病態全体をとらえることが難しい	・入院時情報提供書による情報共有
7.見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない	・トレーシングレポートを送信しやすい環境
8.患者の理解が得られない	・お薬手帳カバーの活用 (かかりつけ薬剤師)

医師との関わりについて

- 手術・検査目的で入院の際は、病院からの指示で中止する必要のある薬、中止期間などについては、保険薬局からクリニックへ再度情報共有しておくことで、安全性を担保している
(通常、入院予定の病院とクリニック間の診療情報提供書により情報共有できているはずの内容が漏れることを補完している)
- 院内処方されるクリニックには、かかりつけ薬局から連絡し、服薬情報を提供して頂いている (かかりつけ薬局へ情報集約)

本取り組みは、薬剤師会から医師会へ協議・説明済み

入院時情報提供書による情報共有

- 入院予定の病院から情報提供依頼
- かかりつけ医に中止薬の連絡
- かかりつけ薬局が持参薬の調整・病院へ持参薬の情報提供

確認日: 2022 年 4 月 1 日

病院名 宝塚市立病院 御中

入院時薬剤情報提供書

入院予定日	4月3日	診療科	〇〇科
カネ 患者氏名	カネ	患者ID	〇〇〇〇
	患者氏名	生年月日	昭和〇年〇〇月〇日

※ 日数は揃えず、実際の数を記載しています。
 ※ 薬剤の欄が足りない場合は、本用紙をNo1、No2として複数使用します。

薬剤名	1日用量	用法	確認日の 残日数	入院日以降 の残日数
① アデホジン錠 50mg	2錠	分2 朝夕食後	14	12
② ドバコール配合錠 L100	3錠	分3 朝昼夕食後		
③ レキップOR錠 2mg	3錠	分1 朝食後		
④ ドバコール配合錠 L50	2錠	分2 11時と16時		
⑤ ペダニス錠 50mg	1錠	分1 朝食後	21	19
⑥ チネリア錠 20mg	1錠	分1 朝食後		
⑦ グリメヒリド錠 1mg「日医工」	1錠	分1 朝食後		
⑧ ミカルヂス錠 20mg	1錠	分1 朝食後		
⑨ ホキシウムカプセル 20mg	1cap	分1 夕食後		
⑩				
⑪				
⑫				
⑬				
⑭				

処方元・薬局名	(例) ①~④ A医院、B薬局 ⑤~⑧ Cクリニック、D薬局
中止薬名	△L
特記事項	

薬局名	〇〇薬局
薬局住所	〇〇市〇〇町〇-〇
T E L	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇
F A X	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇
担当薬剤師	〇〇〇〇

トレーシングレポートを送信しやすい環境

- 地域包括ケアシステム研究会等により、多職種と顔が見える関係を構築
- トレーシングレポート様式変更により当会ホームページ上から直接入力し印刷可能に
- 病院薬剤部と市内保険薬局との薬薬連携研究会を開催

別紙 2

↑ FAX: _____

御中 報告日: _____年 ____月 ____日

服薬情報提供書 (トレーシングレポート)

担当医	科	保険薬局 名称
	先生 御机下	所在地
患者 ID:		電話番号:
患者名:		FAX 番号:
		担当薬剤師名:

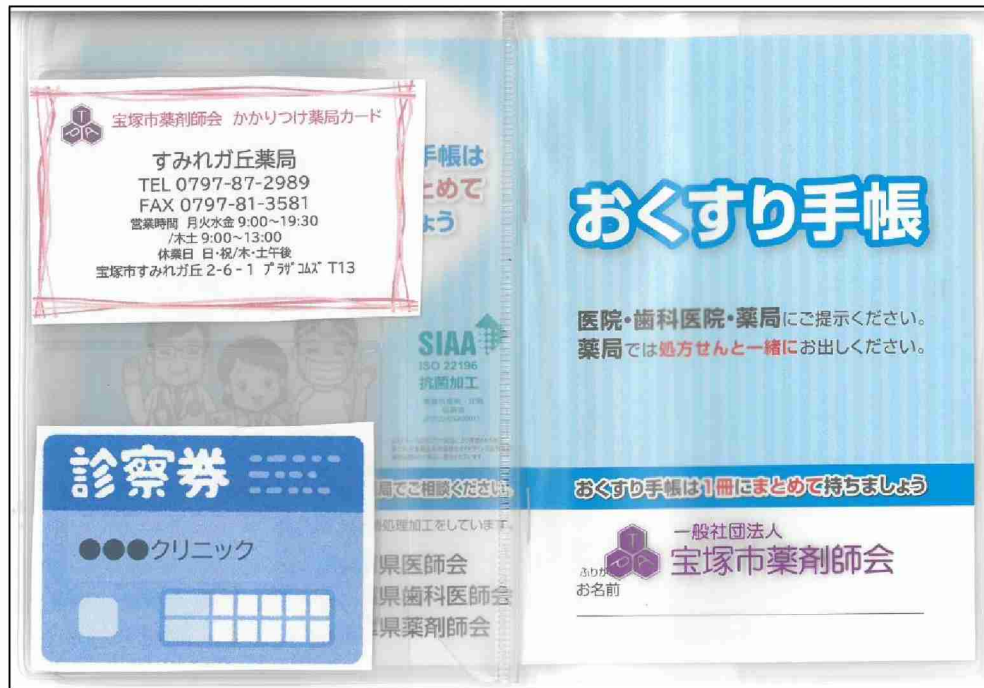
この情報を伝えることに対して患者の同意を 得た。 得ていない。
患者は主治医への報告を拒否していますが、治療上重要だと思われるので報告致します。

処方せんに基づき調剤を行い、薬剤交付致しました。
下記の通り、ご報告致します。ご高配賜りますようお願い申し上げます。

所見

薬剤師としての提案事項 (返信 要 不要)

お薬手帳カバーの活用



- かかりつけ薬局として「薬局カード」等を入れて、かかりつけの認識をしてもらう
- かかりつけ医・担当ケアマネをわかりやすくし、多職種との連携をしやすいとする。
- お薬手帳を1冊にまとめ、残薬の確認をしやすいとする
- お薬手帳を介して、他職種へのフィードバック

3.作業計画・スケジュール

- 作業体制
- 2. の作業スケジュール

3.作業計画・スケジュール

各種作業	2022年									2023年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
説明会	4/23 薬局				8/24 多職種							
入院時服用薬剤調整・情報提供依頼書 事業実施	[作業期間: 4月 - 3月]											
お薬手帳カバーマニュアル作成 お薬手帳カバー配布				7/14 委員会			配付 開始	[作業期間: 10月 - 3月]				
トレーシングレポート様式変更		変更										
薬局アンケート			実施 集計								実施 予定	集計 予定
中間報告								11/30				
最終報告												

3.作業体制

責任者

副会長
らくらくファーマシー
畑 世剛

宝塚市薬剤師会・宝つーかーの会

理事
宝塚市立病院
吉岡 睦展

理事
フタバ薬局
琢磨 寛孝

副会長
たんぼぼ薬局仁川
森本 愛

会長
やまて薬局プラス
村上 史恵

病院統括

回生会 宝塚病院

宝塚磯病院

宝塚第一病院

薬局統括

理事
アイビー調剤薬局
鈴木 さゆり

マニュアル作成

理事
エビラファーマシー
奥村 友美

理事
やまて薬局プラス
神川 智子

多職種連携

1・2地区担当
ちぐさ薬局
大槻 恵子

3・4地区担当
さくら薬局売布
堀切 智子

5・6・7地区担当
シンバン薬局中山
岡田 千鶴榮

地域ケア会議

地域包括支援センター

1~7地区
地域包括支援
センター各担当者

ケアマネジャー

1~7地区
各事業所

医師会

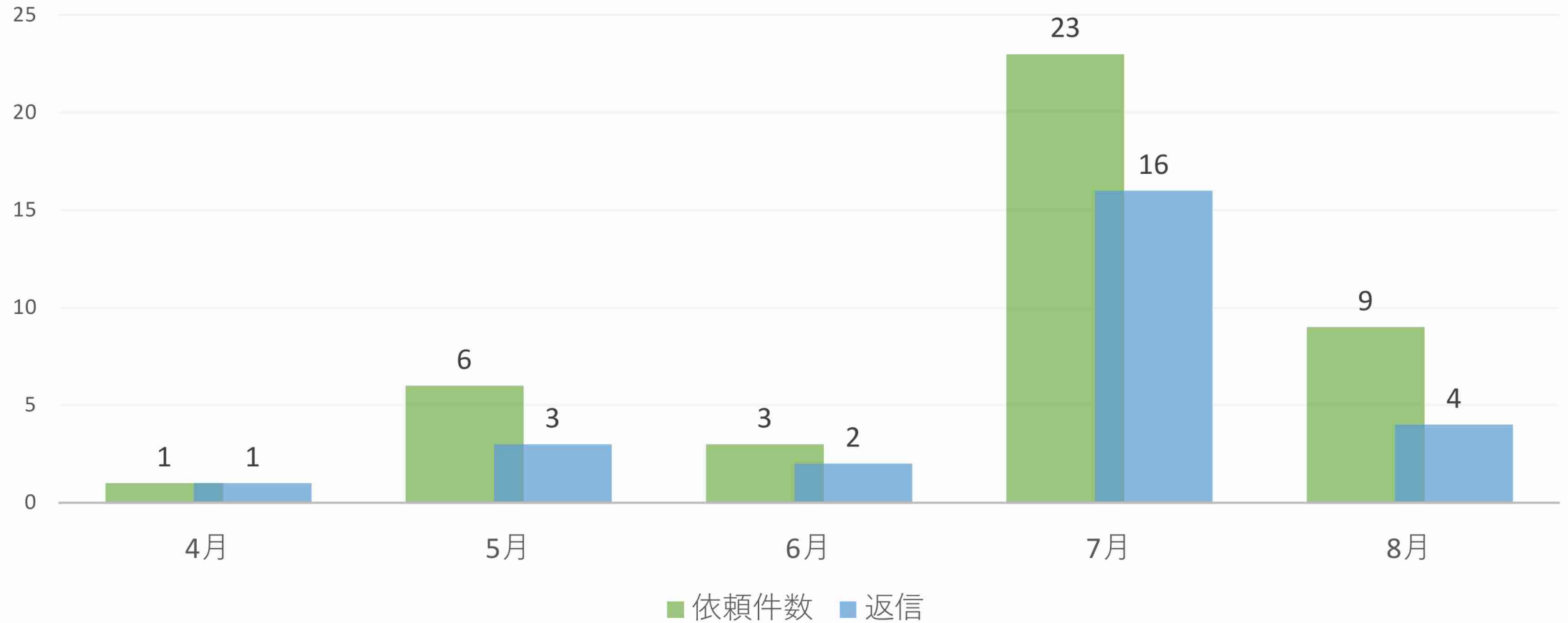
宝塚市医師会

病院・診療所

4.進捗状況

各種作業	備考	時期・期間	進捗
説明会	薬局向け説明会 多職種向け説明会	令和4年4月23日実施 令和4年8月24、26、30日実施	完了
入院時服用薬剤調整 情報提供依頼書 事業実施	事業実施	契約締結日から	実施中
お薬手帳カバーマニュアル作成 お薬手帳カバー配布	マニュアル作成準備委員会 お薬手帳カバー配布	令和4年7月14日実施 令和4年10月～配布	完了 配付中
トレーシングレポート様式変更	PDFフォーム作成	令和4年5月実施	完了
薬局アンケート送付・集計	アウトカム測定用の事前アンケート 送付・集計	令和4年6月実施	完了
中間報告	入院時情報提供依頼数等集計	令和4年11月30日予定	
最終報告	アウトカム測定用のアンケート 送付・集計	令和5年2月予定	

入院時服用薬剤調整・情報提供依頼書



5.本取組の好事例

①かかりつけ薬局（薬剤師）の役割を
病院薬剤師による患者面談によって啓発

【具体例】

入院時情報提供書の依頼を機に、複数の薬局にかかっていた患者について、病院薬剤師からの推奨も後押しし、薬局を一本化することができた。

入院時情報提供の依頼を受けた薬局が、かかりつけ薬局としてもらえないか患者に進めたところ、患者が病院薬剤師に相談をし、ポリファーマシーの状況であったこともあり推奨したところ、上手く対応できて、薬剤が整理できた

5.本取組の好事例

②急な入院延期などにも薬局薬剤師との連携で休薬の再開などにも対応

【具体例】

コロナ禍の入院制限で直前に入院が延期になる患者に対して、薬局薬剤師との連携で休薬の再開など細かい対応が可能となった。

院内で入院前に病院薬剤師が面談する仕組みを作ったことで、薬局薬剤師に連携するまでもない事でも未然に服薬過誤を防止できた事例や従来対応していなかった事例にも外来患者の問題を病院薬剤師が解決できる事例が増えた。

6.現時点での業務手順書の有効性と課題

有効性	課題
<p>■第2章 ポリファーマシー対策の進め方 2.ポリファーマシー対策の実施 2) 入院前 ア) 対象患者をスクリーニングする イ) 入院前の医療機関等へ情報提供を求める →を参考に手順書等を作成・実施できた</p> <p>■様式事例集 様式 03 「持参薬評価テンプレート」 (東京大学医学部附属病院) →を参考に患者が入院する際に、病院からかかりつけ薬局に伝え、かかりつけ薬局が患者のかかっている他の薬局の情報等を集約して入院時の持参薬等を入院先の病院に提供するという取り組みを実施できた</p>	<p>■第2章 ポリファーマシー対策の進め方 1. ポリファーマシー対策の体制づくり (6) 地域包括ケアシステムを担う医療・介護関係者等との連携体制をつくる</p> <p>→市内病院に同様の体制づくりを呼び掛けるも各病院の事情により実施に至っていない病院が多い</p> <p>(コロナにより定期的に行われていた会議が開催できなくなっているが、今後webを用いた会議などを開いて、市内病院との連携を強化していく)</p>

7. 今後の取り組み

時期	実施事項
11月～	市内全域での入院情報提供書の取組強化
11月26日	宝塚市薬剤師地域連携研究会（宝つーかーの会）にて協議
2月頃	事業後アンケートの実施
3月頃	事業後アンケートの集計

今後、保険薬局薬剤師と病院薬剤師の連携による双方向の情報共有や患者への働きかけによってポリファーマシーを含む全ての薬物療法改善に至った好事例を抽出し、その要因分析を行うことで業務手順書に反映し得る点を明らかにする。